

電力会社がお提案するBCP策定ガイド

企業活動の継続に必要な計画策定のノウハウをご紹介します

エピローグ

中部電力ミライズ株式会社

CHUBU Electric Power Miraiz Co.,Inc

はじめに

CHECK!

シリーズ連載してきた「電力会社のご提案するBCP策定ガイド」も、いよいよ最終回となりました。初回のプロローグ編からお読みいただき、ありがとうございます。あなたの会社の基本的なBCP策定のお役に立ちましたでしょうか？

前回まで紹介してきた本コンテンツの内容は、あくまでも最低限必要なBCPの検討項目であり、BCPへの取り組み方を整理する、ということをも目的としたものです。

そのため、本コンテンツにより簡易なBCP(初版)を策定した後は、「被災した際に目標とする復旧期間(目標復旧期間)や被害想定を新たにBCPに盛り込む」「従業員のスキル一覧表等の具体的な帳票類を作成する」「防災とBCPの関係性を再整理する」「日々の経営とBCP運用を一体化する」など、取り組みの範囲を拡大し、あなたの会社にとって、より理想的なBCPの策定・運用へと近づけていくことが重要となります。

そのためには、上記のようなさまざまな取り組みをおこなう必要がありますが、これらの中でも、「防災とBCPの再整理」「日々の経営とBCP運用の一体化」の2点が、とくに検討していただきたい点となります。そこで、本コンテンツの最後として、この2点について検討内容などを解説しますので、今後の活動の参考にしてください。

防災とBCPの再整理

これまでは、「あなたの会社にとって重要な経営資源(人、物、金、情報など)がなくなったら、また、ライフライン(電気、ガス、水道など)が途絶えたらどうする?」ということを考え、必要な対策などをBCPとしてとりまとめ、運用する手順を解説してきました。ただし、緊急時にあなたの会社の基本方針に則り事業継続を実現するためには、大変重要な観点がもうひとつあります。それは「そもそも重要な経営資源をなくさないためにはどうする?」ということです。これは、経営資源を守るための取り組みをおこなうことであり、従来の「防災」への取り組みとなります。防災への取り組みの例としては、「設備を固定する」「安否確認ルールを整備する」といったものが挙げられ、これらの対策などまで含んだ、広い意味でのBCPを策定・運用することが重要となります。

そのため、本コンテンツをもとに簡易なBCP(初版)を策定した後は、あなたの会社の防災への取り組みと策定したBCPの関係性を一度整理してみてください。そのうえで、BCP(初版)に防災への取り組みを入れ、従業員や機械設備などを守ることができ、尚かつ事業継続に向けた対応の道標となるBCPへと発展させることが望ましいといえます。



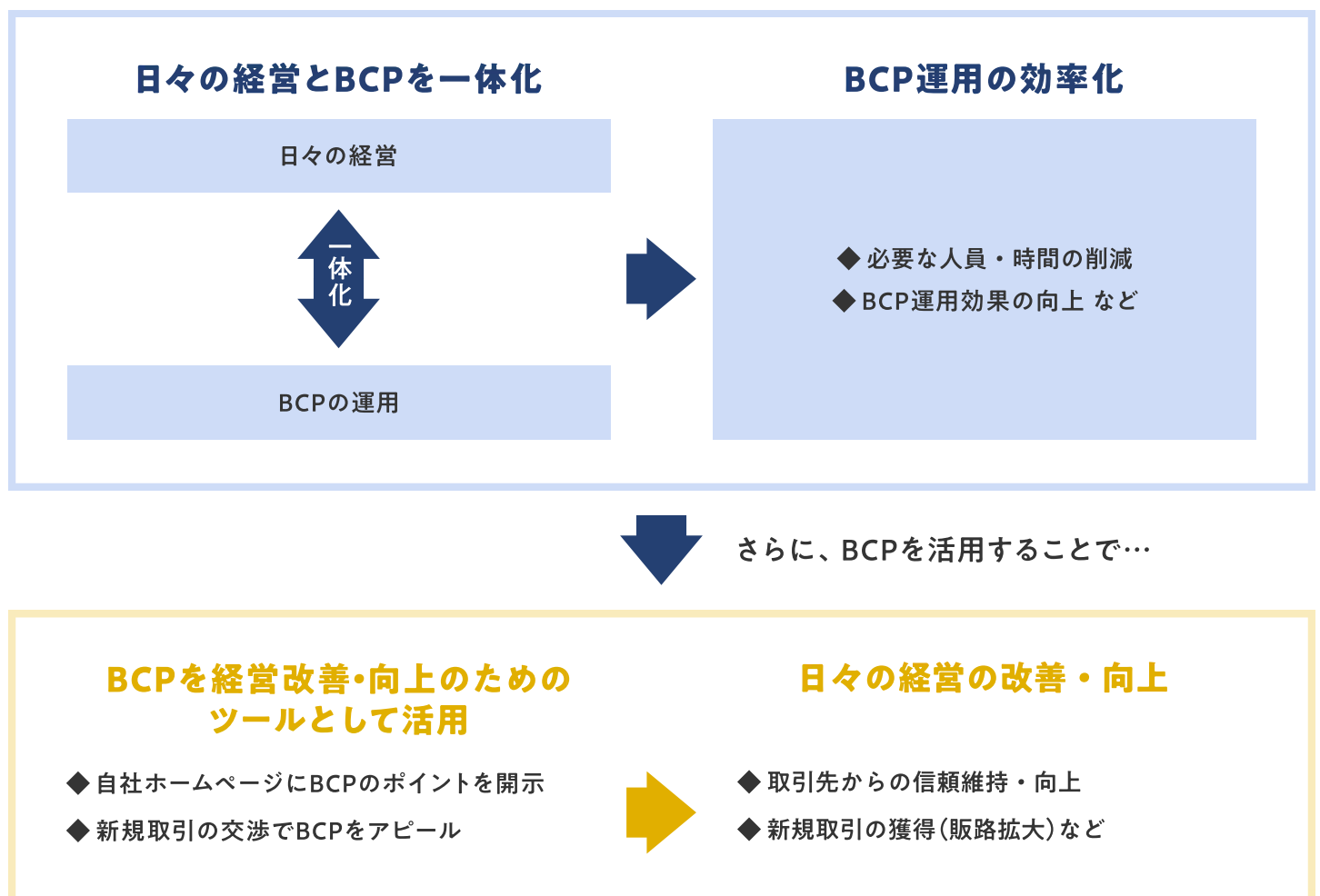
緊急事態への対応力向上

日々の経営とBCP運用の一体化

策定したBCPの運用を日々の経営から切り離して考えてしまっている方が多いのではないのでしょうか。しかし、これでは日々の経営とBCP運用の2つを並行して実施しなければならないため、BCP運用にあてる人員・時間が不足し、なかなか運用が進まなくなってしまいます。そのため、日々の経営の一環もしくは延長として位置づけ、運用の効率化を図ることが重要となります。こうした取り組みの例としては、「日々の従業員教育のカリキュラムの中に、重要商品に必要なスキルを習得するプログラムを盛り込む」「情報発信・収集手段として新しく取り入れたSNS(ソーシャルネットワーキングサービス)を緊急時だけでなく、平常時のコミュニケーションにも活用し、問題点が発見されたらそれを随時見直す」などが挙げられます。これからBCPの策定・運用に取り組む方や、BCPを策定したが運用ができずに困っている方は、このようにBCPを日々の経営と同じ立ち位置にあるものにとらえ、運用方法の検討・見直しをおこなうことをおすすめします。

また、こうした考えの発展として、BCPを活用することで、日々の経営にプラスの効果をもたらされる可能性があることも忘れてはいけません。策定したBCPをホームページに開示することで取引先からの信頼維持・向上につながったり、新規取引の交渉時に策定したBCPをアピールすることで販路拡大につながったりと、BCPの活用方法によっては経営の改善・向上につながる可能性もあります。そのため、あなたの会社におけるBCPの運用方法を確立した後は、BCPを事業継続のための計画書として位置づけるだけでなく、「どのように活用すれば、BCPが自社の経営改善・向上につながるのか？」も検討し、ぜひ、あなたの会社の経営改善・向上に結びつけてみてください。

日々の経営とBCP



おわりに

昨今、インフルエンザなどの感染症の世界的大流行、東日本大震災の発生、過去の経験値を上回る豪雨、突風の発生など、これまでの予想を超えるリスクに見舞われるケースが多発しており、直接的・間接的に多くの企業が経営にマイナスの影響を受けています。

また、今後は、首都直下地震や南海トラフ巨大地震など、日本の経済を揺るがしかねない大型の自然災害などの発生も懸念されています。さらに、SNSなどの普及にともない情報セキュリティ上の問題が発生するといった事態におちいってしまう可能性もあります。このように自然災害のみならず、情報セキュリティ問題など、さまざまな局面で新たなリスクの可能性が考えられる現在において、「BCP(事業継続計画)」の策定・運用の重要性が再認識されています。

BCPとは、これまで解説してきたとおり、自然災害をはじめとするリスクへの対策のひとつとなるものであるとともに、経営の改善・向上のツールとしても活用できるものです。BCPをリスクへの対策としてとらえてしまうと、取り組むことに躊躇してしまう方が多いと思いますが、経営の改善・向上のチャンスととらえて、まずは第一歩を踏み出してみてください。そして、できる範囲からBCPへの取り組みをはじめ、それを少しずつ改善し、あなたの会社にとって理想的なBCPの実現を目指してみてください。

本コンテンツでは、プロローグから始まりエピローグまで全6章の構成で、BCPの策定、運用手順、見直しを解説してきました。あなたの会社のBCPへの取り組みのヒント、さらには「あなたの会社にあるべきリスクマネジメントとは何か？」を見つめ直すツールとしても活用いただければ幸いです。

